

**2026年度(総合型選抜)AO選抜入学試験**  
**政策科学部「UNITE Program<sup>®</sup>(数学(統計))方式」**

---

**1. 実施状況**

(1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
政策科学部・政策科学専攻	52	21	9

(2) 本入学試験の目的

政策科学部は、問題解決指向的な精神を備えた政策構想力と政策実践力を持った人材を育成することを教学理念に掲げています。適切な政策を構想・実践するためには、解決すべき問題を論理的・客観的に分析しかつ的確に把握する必要があります。「データの分析」や「統計的な推測」はそのための重要な手段の一つとなります。「UNITE Program<sup>®</sup>(数学(統計))方式」は、「データの分析」や「統計的な推測」の能力に優れている人材を、広く受け入れることを目的としています。

**2. 試験内容**

(1) 第1次選考

第1次選考では、調査書およびエントリーシートなどを総合的に評価しました。エントリーシートのA欄では、政策科学部を志望する理由について説明することを求めました。また、同B欄では、政策科学部が指定する公的なアーカイブに掲載されているデータ(グラフ、統計表、その他図表等)を用いながら、UNITE Program<sup>®</sup>の学習で得た数学的な素養を活かして社会の問題を一つ論じることを求めました。

(2) 第2次選考

第2次選考は、上記の出願書類全てに基づき、15分間の個人面接を行いました。

**3. 出題の意図**

(1) 第1次選考

第1次選考は、エントリーシートA欄とB欄に関する指示を適切に理解しながら、論理的かつ説得的な記述ができているかを確認しようとしてきました。

(2) 第2次選考

第2次選考は、エントリーシートA欄における記述に基づき、高校での学びや経験がどのように政策科学部への志望とつながっているのか、またどのような学びを政策科学部において行おうとしているのかなどを確認することを目的としました。また、B欄における記述に基づき、関心を持っている社会問題ならびにそれを論じるにあたって用いたデータの関連性およびデータの処理の適切性などを確認することを目的としました。なお、データの扱い方の確認においては、政策科学部が指定するUNITE Programの学習内容の理解度についても測ろうとしました。

**4. 評価のポイント**

(1) 第1次選考

出願書類全てにおける記述を通して志望動機や大学入学後の学習意欲、関心などを測り、政策科学部への適性を評価しました。

## (2) 第2次選考

15分間の個人面接では、出願書類で記述されている内容を確認しつつ、政策科学部への志望動機や学びの関心度、またデータの特性の理解度やその扱い方の適切さなどについて、面接の応答から評価しました。

## 5. 解答状況

### (1) 第1次選考

エントリーシートA欄について、合格者は、高校での学習や経験をもとに政策科学部で何をどのように学びたいのか、それらを将来にどのように活かしたいのかが論理的に書けていました。またB欄について、合格者は、関心のある社会問題の説明を丁寧にした上で立論し、用いたデータで議論を補強できていました。不合格者は、学部HPやパンフレットの内容から読み取った事柄を十分に示せていない傾向がありました。

### (2) 第2次選考

合格者は、エントリーシートA欄で述べた内容を補完するような情報を話せていました。相対的に差がついたのは、B欄に関する内容への応答の仕方でした。具体的には、合格者は選定した社会問題への理解が深く、UNITE Programで培った数学的な素養が伝わるようなデータの示し方ができていました。

## 6. 次年度の受験生へのアドバイス

エントリーシートA欄とB欄で記述されている内容を重視しています。精度の高い文章を書くために、高校での正課および課外の活動について、整理する（記述する）時間を作ってみてください。また学部HPやパンフレットの文言をそのまま用いるのではなく、自身の興味関心や大学で学びたいことに落とし込んで、それを自身の言葉で表現できるようにしてみてください。

上記のように、「UNITE Program®（数学（統計））方式」は、「データの分析」や「統計的な推測」の能力に優れている人材を、広く受け入れることを目的とした試験ですが、政策科学は文理融合の学際的な学問であることを強調しておきたいと思います。そうした政策科学の学びの特徴をよく理解し、旺盛な好奇心と高い意欲を持って、広範な知識を習得することも心がけてください。

以上